

平成17年度の検討概要

(1) 手法の改良開発

①新手法開発の検討基準

- 自然の力の活用（毎年供給されるリターの活用等）
- 天然材料の利用（環境負荷を最小限にする）
- 景観の維持（自然公園の景観と調和させる）
- 維持管理の容易な構造（一部の破壊が浸食の拡大を招かないように）

②手法区分と主な狙い

	リター捕捉ネット リター捕捉ロール工類	木製筋工	急斜面用保護柵
手法区分	リター	勾配・被覆	植生
今回試験施工の主なねらい	構造の耐久性、施工性	サイドや下流の浸食対応	急斜面での強度、施工性

③モニタリング・検証方法

検証項目	指標	手順		評価方法
		施工時	モニタリング	
施工性	資材運搬面の適正 設置手間	運搬方法整理 設置方法整理		各手法間の比較 各手法の施工特性整理
費用	施工単価	施工単価整理 運搬費用整理		各手法間の比較(単体での費用、施工面積当りの費用、効果面積当りの費用)
維持管理	維持管理費用		維持管理実績(内容、経費)の整理 各手法の維持管理上の特性整理	各手法間の比較 各手法の特性整理
浸食軽減効果	土壌浸食量		月1~2回(冬季除く) 浸食量測定枠による捕捉土砂回収・測定	無施工地、各手法間での浸食量の比較
リター捕捉効果	リター被覆面積率 (落葉後の被覆率、その後の減少率)	設置時の写真撮影	定点の定期的写真撮影(落葉前・後・春季・夏季)	落葉後のリター被覆率とその後の減少率
植生回復度	植生被度	施工前・完成時の写真撮影	定点の定期的写真撮影(夏季)	各手法間の比較 柵内と無施工地の比較
景観	定点写真	施工前・完成時の写真撮影	定点の定期的写真撮影(季節ごと)	各手法間の比較(景観への影響度)

④試験施工事例

○施工場所: 清川村宮ヶ瀬(堂平)
○施工時期: 平成17年11~12月
○試験施工手法区分と施工数量

施工手法	手法の種類	数量
リター捕捉ネット	ヤシ繊維ネット使用	3*
	タイプA(丸めてリター詰め)	1
リター捕捉ロール	タイプB(丸めたネット)	2*
	麻袋土のリター詰め	1
	竹繊維土のリター詰め	1
木製筋工	竹繊維ネット併用型	5*
	ヤシ繊維ネット併用型	5*
	タイプA(斜面下部支柱なし)	1
	タイプB(斜面下部支柱あり)	1
	タイプC、D(既製品イノシシ柵)	2
土壌浸食量測定枠	タイプE(従来保護柵部材)	2
	無施工地比較用	8
	モニター用	15



(2) 流域総合保全のための実行計画策定ガイドラインと塩水川流域総合保全推進モデル

